



3. 緑の役割

3. 緑の役割

緑の保全と創出を進めるにあたり、緑が有する多様な役割に着目することが肝要となります。一般的に緑の役割は「人と自然が共生する都市環境を確保する役割」「緑の持つ多様な機能の活用により、質の高い余暇空間を確保する役割」「緑を適切に確保することによる都市の安全性・防災性を高める役割」「多様性や四季の変化が心を育み、潤いのある美しい景観を形成する役割」の4つに大別されます。

表 3.1 緑の一般的な役割

役 割	内 容
人と自然が共生する都市環境を確保する役割	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の呼吸による『CO₂の吸収』効果 ・緑の被覆による『水源かん養』効果並びに『気温湿度の制御』効果 ・緑の葉っぱによる『汚染物質の吸着』効果 ・緑の遮蔽（緑地帯など）による『騒音の緩和』効果 等 ・緑の生態系基盤の形成（草むらや水辺、樹林地等）による『生物の生育、生息環境の維持』効果 ・緑の生産活動（農業、林業）の基盤による『資源の循環供給』効果
緑の持つ多様な機能の活用により、質の高い余暇空間を確保する役割	<ul style="list-style-type: none"> ・住区基幹公園による『遊び場』並びに『コミュニティの場』 ・総合公園や運動公園による『スポーツの場』並びに『多様なレクリエーションの場』 ・遊歩道や登山道による『散策の場』や『森林浴の場』 等
緑を適切に確保することによる都市の安全性・防災性を高める役割	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の被覆による『土砂災害防止』効果並びに『水害軽減』効果 ・緑の遮蔽（街路樹や生垣など）による『防風・防火』効果 ・街路樹等による『避難路形成』効果 ・公園等による『避難地形成』効果 等
多様性や四季の変化が心を育み、潤いのある美しい景観を形成する役割	<ul style="list-style-type: none"> ・開花や紅葉など『やすらぎと四季の変化の景観形成』効果 ・山や川などの緑による『地域固有（郷土）の景観形成』効果 ・緑の遮蔽による『修景』効果 ・街路樹や街角の木々による『目印（ランドマーク）』効果 等 ・史跡周辺の緑や神社の境内林などによる『歴史的景観形成』効果

表 3.1 に示す 4 つの緑の一般的役割は、「自然とのふれあいの場が多い都市環境にある」「社寺林や史跡を取り巻く緑が数多く存在する」という伊勢原市の特性等を踏まえ、次の 6 つの役割に区分します。

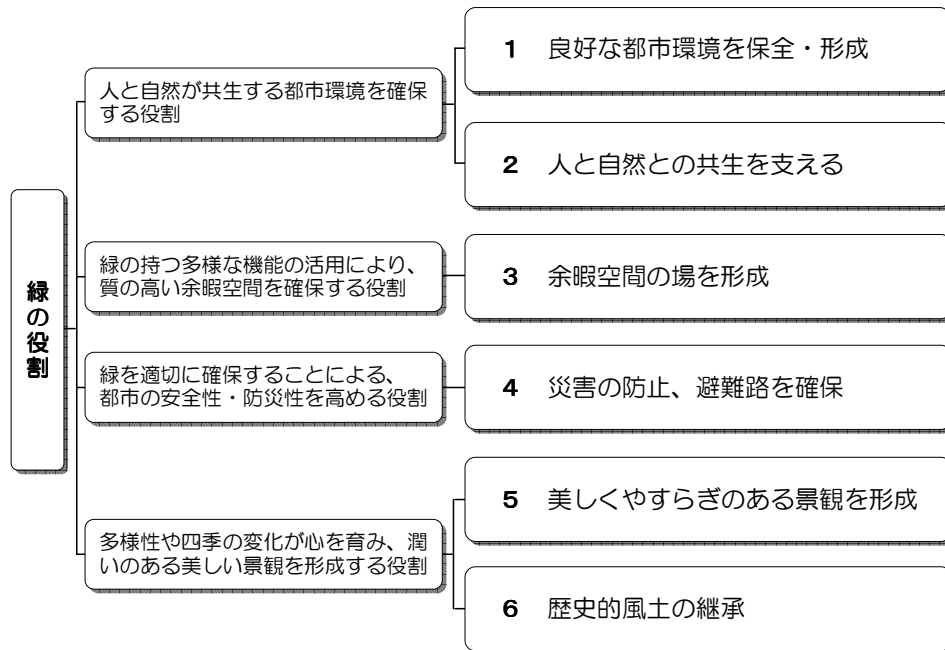


図 3.2 緑の 6 つの役割

① 良好な都市環境を保全・形成する役割

- ・大山・日向のようなまとまった大規模な緑は、『CO₂の吸収』、『大気の浄化』、『水源かん養』等の機能を有し、良好な都市環境を形成するうえで不可欠なものです。
- ・市街地周辺の樹林地、農地、河川等の水辺地は、「やま」や「さと」の自然の緑と市街地をつなげ、『都市の気温湿度を制御』、『ヒートアイランド現象の防止』等の機能を有する『風の道』を形成します。
- ・街路樹などの沿道の緑は、『自動車排出ガスの吸収・吸着』、『道路騒音の緩和』等の機能を有します。特に、第二東名自動車道や国道 246 号バイパス（厚木秦野道路）などの広域幹線道路や市内の幹線道路に対して、その役割は大きくなります。
- ・工業団地等（鈴川工業団地や東部工業団地等）の緑は、『工場からの排出ガスの吸収・吸着』、『工場騒音の緩和』等の機能を有します。
- ・終末処理場の敷地内の緑、オープンスペースは、周辺地域からの景観に配慮した緑の機能を有しています。
- ・市民アンケートでは、地球温暖化防止や身近な自然環境保全などの緑の役割について、「大山などの自然に加え、市街地でも木々を増やしていくべきである」との回答が全体の 75% を占めています。このことから、市民の多くも、良好な都市環境を保全・形成する上での緑の役割を期待していると言えます。

② 人と自然との共生を支える役割

- ・丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園、大山・日向自然環境保全地域は、自然の緑が豊富で、多くの動植物の生息地・生育地として良好な生態系を構成します。そして、これらの緑は登山、森林浴、ハイキング、観光などの場にもなります。
- ・大山・日向の山裾に広がる樹林地や農地からなる里山は、人々の生活と調和した自然環境が広がり、身近に目に触れる動植物種が豊富です。これらの緑は里山体験の場としての機能を有します。
- ・樹林地や農地は、農業や林業の生産活動の基盤であり、食料生産や木材生産などを通じて資源の循環がなされています。
- ・市街地における樹林地や境内林は、カブトムシなどの生育地・生息地として、また市街地周辺に広がる水田地帯や用水路などの水辺地は、トンボやザリガニなどの生育地・生息地として生態系を構成します。これらの緑は、昆虫採集や植物採集など、子どもたちの自然体験の場となっています。
- ・歌川、渋田川、鈴川などの河川の水辺は、「やま」～「さと」の固有の自然環境や生態系を結び、伊勢原市におけるエコロジカルネットワーク(生態系回廊)の軸として機能します。
- ・小学生の市民アンケートでは、身近な自然空間(樹林地や水辺地)での昆虫採集など、日常的に自然とのふれあいの場が持たれています。また、一般の市民アンケートでは、日常生活における自然とのふれあいに高いニーズが認められます。このことから、人と自然との共生を支える緑の役割は大きいと言えます。

③ 余暇空間の場を形成する役割

- ・大山、日向の緑は、自然とのふれあいの場として、登山、ハイキング、観光など、多様なレクリエーション機能を有します。特に、大山は宿泊滞在型施設を要する歴史ある観光地として、また日向は、キャンプ場や溪流釣りの場として、多くの人々が訪れる観光レクリエーションの場となっています。
- ・都市基幹公園は、運動施設や広場、大型遊具など複合的な機能を有する公園となります。また、周辺環境を取り込みながら多様な価値観に対応した、市民の交流・ふれあいの中核になることが期待されます。
- ・住区基幹公園は、子どもたちの身近な遊び場や、高齢者の憩いの場として機能します。
- ・歌川、渋田川、鈴川などの水辺は、堤防敷を利用した散策路として、また多様性のある水辺空間として、憩いの場を形成します。
- ・市民アンケートでは、市民の余暇活動に対するニーズの多様化、高度化、広域化が伺えます。緑の持つ多様な機能を活用することが、都市における余暇空間の形成に役立つものと考えられます。

④ 災害を防止、避難路を確保する役割

- ・鈴川や日向川の流域やその裾野に広がる樹林地は、土地の被覆による土砂災害を防止する機能を有しています。
- ・市街地における斜面緑地は、雨水流量の調整や斜面崩壊を防ぐ機能を有します。
- ・市街地の身近な公園緑地は、災害時の一時避難地となります。また街路樹や生垣は、防火帯としての機能や倒壊する建物やブロック塀による道路寸断を防止する機能を有します。
- ・低地に広がる水田は、遊水機能を有し、水害を軽減します。
- ・歌川・洪田川、鈴川などは、洪水を排除する治水上重要な機能を有します。また、災害時には、防災・防火用水などの多様な用途に活用されます。
- ・市民アンケートでも、「街路樹や樹林地等は、災害時における防災空間として有効であり、市街地でも十分に活用すべき」との回答が全体の 68%を占めています。このことから、市民の多くが災害を防止し、避難路を確保する役割を期待しています。

⑤ 美しくやすらぎのある景観を形成する役割

- ・大山山系やその裾野に広がる樹林地は、大山の山容を特徴づけて、市街地景観の背景として、また市民の心象風景となります。
- ・市街地における樹林地や境内林などは、まちの目印（ランドマーク）やシンボルとなって、まちの表情を豊かにします。
- ・身近な公園や街路樹、街角の花壇、学校などの公共施設の緑、生垣や庭木は、四季の変化を実感できる美しい街並み景観を創出します。
- ・広大な農地は、広々とした眺望景観を生み出します。また、大山を背景とした田園風景は、伊勢原市固有の景観を形成します。
- ・歌川、洪田川、鈴川などの水辺は、周辺の樹林地などを背景に、河川固有の水辺景観を形成します。
- ・大山街道や日向街道は、歴史的風土を背景に郷土景観を印象付けます。

⑥ 歴史的風土を伝える役割

- ・大山阿夫利神社、日向薬師などの社寺林や太田道灌の墓、実蒔原古戦場などの史跡を取り巻く緑は、伊勢原の歴史的風土を継承します。
- ・市街地や集落地の社寺林は、地域固有の文化や歴史と深く関わるとともに、地域コミュニティの核となって、地域のゆかりを今に伝え、個性と魅力ある地域を継承します。